キャラクター名
グリフォス・K・ホワイトフォード

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー エグザイル	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	ボードゲームカフェ店長
オプショナル		年齢	31	性別	男性
覚醒	死	衝動	加虐	初期侵食率	33 %
出自	待ち望まれた子	経験	海外生活	邂逅	同志

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	3			7
感覚	3	0	0	1		4
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	35
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達	1	
運転：二輪	2		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣戟	白兵	7r+5		消費HP+2		[2]で作った白兵武器の攻撃判定 消費HPはMax 8まで
深紅の一閃（100%未満）	白兵	8r+5		消費HP+2		<赫き剣戟>への補正[1+3+5]　使用後2HP消費(by[3])
深紅の一閃（100%以上）	白兵	10r+5		消費HP+2		<赫き剣戟>への補正[1+3+5]　使用後2HP消費(by[3])

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
テレーズ・ブルム	P 好奇心	N 憐憫		
真田浩司：不確定な切り札(ワーウルフ)	P 親近感	N 悔悟		
鈴野春香：アウェイクン	P 感服	N 敵愾心		
HO２輝気優	P 有為	N 劣等感		
ブラック・カーテン	P 好奇心	N 脅威		
HO3	P 執着	N		
HO4	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：ブラムストーカー	3	2	メジャー					
効果：C値-LV（下限値7）								
赫き剣	4	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果：白兵武器作成 Max[LV*2]分のHPを消費し攻撃力に転化								
鮮血の一撃	2	2	メジャー	武器		対決		
効果：ダイス+［LV+1］。2HP消費								
血の宴	1	3	メジャー	範囲（選択）		対決		
効果：対象：範囲（選択）。シナリオLV回								
伸縮腕	1	2	メジャー	視界		対決		
効果：射程：視界。ダイス-［3-LV］								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

■『PC1』●ロイス：ブラック・カーテン ●推奨感情：P:任意/N:脅威
●ワークス／カヴァー：UGN支部長／任意
　君はUGN、N市支部の支部長だ。現在君の最重要目標は謎のFHセルリーダー、ブラック・カーテンの居場所を突き止め、討伐することである。数々の事件の裏側にはブラック・カーテンが潜んでいたことが判明し、やつを倒さない限り凶悪な事件は起き続けるだろう。
　ある日、君の右腕である只野茂武男がブラック・カーテンの研究所を見つけたという情報を入手し、君は攻撃を仕掛ける準備を進めた。

紹介）遊戯王（ペガサスJクロフォード）が元ネタです。

世間的な成功者であった。今も表向きはそうだが、「あの日」以来、私の世界は反転した。
ダブルクロス。人間にもオーヴァードにも、成り行き次第では敵対しうる身の上だ。こんなことでは、命がいくつあっても足りないだろう？

霧谷の掲げる理念に保身の可能性を見出し、テレーズの作る世界に興味が湧いて、UNG支部長なんぞをやっている。
内心はオーヴァードとしての加虐的な衝動を飼いならしながら、任務にあたる日々だ。

「あの日」以来、私の頭はおかしくなってしまった。
自分や他人の体から、血が流れる様子を見たくてたまらない。
人の肌を見て、血液の温度や、その経路がわかる。
生暖かいソレがどんな風に体の中を巡り、どう傷つければ血が上手く噴き出すか、想像できてしまう。

「生きている状態」と「死んでいる状態」の境界はどこにあるだろう？
どこまで血を流しても、人は生きていられるだろうか？